

求人倍率、1.55倍に上昇＝43年9カ月ぶり高水準—10月

12/1(金) 8:42配信



厚生労働省が1日発表した10月の有効求人倍率（季節調整値）は前月比0.03ポイント上昇の1.55倍となり、4カ月ぶりに上昇した。1974年1月以来、43年9カ月ぶりの高水準。景気のゆるやかな回復を背景に、製造業を中心に幅広い産業で求人が増えたことが寄与した。

総務省が同日発表した労働力調査によると、10月の完全失業率（同）は2.8%で、5カ月連続で同水準だった。同省は「雇用情勢は着実に改善している」（労働力人口統計室）とみている。

求人倍率は、ハローワークに申し込んだ求職者1人当たりの求人数。9月まで3カ月連続で1.52倍の横ばいが続いていた。10月は求人数が1%増、求職者は0.5%減だった。業種別の新規求人数は、自動車や住宅関連を中心とする製造業に加え、人手不足が続く医療、福祉で大幅に増加した。